

平成 19 年 10 月 5 日

調査「三重県内の産業・企業動向について」

先行きの見通し、原材料価格の上昇、雇用情勢

(株)百五経済研究所(三重県津市、代表取締役社長 雲井純)では、県内企業へ個別ヒアリングを実施し、定性的な側面から最近の産業・企業の動向についてまとめました。

調査内容

- (1) 業況・業界動向
- (2) 生産・販売活動の動向
- (3) 原油・原材料価格上昇の影響
- (4) 雇用情勢

なお、質問、ご意見等は、下記までお願いいたします。

< 本件担当 > (株)百五経済研究所 地域調査部 津谷昭彦

三重県津市丸之内 9 番 18 号 津丸の内ビル

TEL 059-228-9105 FAX 059-228-9380

要 旨

(1)業況・業界動向

- ・ 製造業では、自動車、工作機械関連分野で業況が良好である。自動車は国内販売が不振であるが、海外向けが好調である。工作機械も欧州やアジアなど外需の拡大で受注が伸びている。
- ・ 一方、安価な海外製品との競争が激しい繊維関連や規制緩和を受け同業者との価格競争が激しい運輸などの業界では、依然として業況が改善していない。
- ・ 観光関連では、お木曳き行事の影響等を受け、伊勢志摩への入込客は増加しており、同地域の観光、宿泊施設やレンタカー業者などで前年比で利用者が増加している。
- ・ 景気の先行き見通しは企業によって様々であるが、原油・原材料価格の上昇などコストアップ要因が拭えない中、現在好調な業界においても将来を楽観視する企業は少ない。

(2)生産・販売活動の動向

- ・製造業の生産活動において、中小企業でもコストダウンや効率化のため海外生産や部品の海外調達は欠かせないものになっている。取引先から品質・価格・納期に対する要求は以前より厳しくなっている。
- ・卸売業などでは商品自体の差別化が難しく、様々な販売促進活動に取り組み、取引先との関係強化を図る動きも見られる。
- ・消費の二極化傾向を受けて、観光業などでは富裕層への顧客の絞込みや、外国人旅行者など新たな顧客層の開拓に取り組む動き見られる。

(3)原油・原材料価格上昇の影響

- ・原油・原材料価格の上昇で多くの企業が影響を受けている。特に製造業にとって金属価格の高騰により収益面で受ける影響は大きい。
- ・中小企業では、仕入価格の上昇に対し、上昇分の全部または一部を自社製品・サービスへ価格転嫁することが困難とする企業は多い。大口取引先が相手になるとその傾向はもっと強くなっている。
- ・ただ、中小企業の中でも、受注拡大でしかも競合先が少ない、個別受注生産をしている企業などでは、年間で1~2回、または一定の上昇幅を限度に取引先と価格交渉の機会を設け、タイムラグは発生するものの、上昇分の一部について価格転嫁できているケースも見られた。

(4)雇用情勢

- ・幅広い業種で人材不足感が高くなっている。特に新卒者については、近年、大手企業が積極的に採用数を増やしており、中小企業は人材確保に苦戦している。また、新卒者を採用したものの定着率の低さに課題を抱える企業も多い。
- ・新卒者が確保できなかった企業では、第2新卒者やUターン、Iターンなど中途採用者の採用にも注力している。即戦力としての期待から雇用の重点を中途採用に置いている企業もある。
- ・団塊世代の定年退職を迎え、また若年層で職人や技術者が年々減少していることから製造業を中心に技能継承への危機感も高くなっている。